

様式（第 5 条関係）

会 議 録

会 議 の 名 称	第 1 回行田市公立学校通学区域等審議会	
開 催 日 時	令和 2 年 1 1 月 1 1 日（水） 開会：午後 7 時 0 0 分・閉会：午後 8 時 1 0 分	
開 催 場 所	産業文化会館 2 A 会議室	
出席者(委員)氏名	山野達雄会長、安藤秀一、中居武司、加瀬田智行、飯塚祥江、 赤羽一真、鈴木達也、小山貴司、羽鳥修弘、羽鳥嗣郎、木元 健治	
欠席者(委員)氏名	千葉房慶	
事 務 局	鈴木教育長、吉田学校教育部長、諸貫教育総務課長、上野 久積、田沼、柏瀬	
会 議 内 容	1 開会 2 あいさつ 3 意識調査結果及び今後の方向性について 4 閉会	
会 議 資 料	(資料名・概要等) ・第 1 回行田市公立学校通学区域等審議会次第 ・行田市公立学校通学区域等審議会委員名簿 ・資料 1 見沼中学校区義務教育学校設立計画に関する経過 ・資料 2 見沼中学校区における義務教育学校に関する意識 調査結果	
その他必要事項	傍聴者 3 名	
会 の 議 確 録 定	確 定 年 月 日	主 宰 者 記 名 押 印
	平成 年 月 日	⑩

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
事務局	1 開会 （委員の紹介） 2 あいさつ （鈴木教育長、山野会長）
山野会長	3 意識調査結果及び今後の方向性について 資料について説明をお願いします。
事務局	本審議会で答申いただいた「行田市公立学校適正規模・適正配置の基本方針及び再編成計画」に基づき、事業を進めてきた。南部地域の学校再編成は、順調に進み、今月１２月の市議会において新校「忍小学校」の設置条例を上程する予定である。 しかし、北部地域の「見沼中学校区における義務教育学校の設立」については、計画を白紙とした。これまでの経過を報告する。 （資料のとおり説明）
山野会長	事務局の説明に意見はあるか。
木元委員	北河原小と須加小の地区の方はどう考えているのか。
事務局	アンケートのとおり様々な意見がある。今後、保護者の皆様の意見を聞き取り、複式学級解消に向けた話し合いをしていきたい。
木元委員	前回、南河原小学校との計画がとん挫している。 税金もかかっている。何回も何回も繰り返していて歯がゆい。
羽鳥嗣委員	義務教育学校の説明不足や理解不足があるように思う。反対が多

山野会長	いから終わりではなく、もう少し話し合いの場を作っていく必要があった。教育委員会が中心となって、行田市全体の問題として捉えていかないと事業を進めるのは難しい。 昔からの地元意識を解消していかなければ解決しない。 小中一貫教育でなくては、再編成は進まないと思った。 西中学校の学校運営協議会において、西中学校の研究課題は「西小・泉小との小中一貫教育の推進」であるとの説明を受けた。先生方と子ども達とで研究を進め、その成果を行田市全体へ周知させ、小中一貫教育の良さを理解してもらいたいと思う。 他にあるか。
小山委員	北河原小は、義務教育学校の賛成の意見も多い。地区ごとに違いはあるが、北河原小、須加小、荒木小を集めて、全体で意見を聞くのは大切だ。 地区ごとの説明会では、その場で意見を言える雰囲気ではなかったと聞いた。
山野会長	その他一言ずつお願いしたい。
羽鳥修委員	最初の説明会の時の荒木の保護者は、参加が5件だけだった。周知が不足していたのではないか。 須加地区は出席が多かった。須加地区は、統合について理解していたからだと思う。北河原と南河原の経緯もあり、次は、須加地区と荒木地区の合併ではないかと認識していた。自分のところの学校がなくなるのは嫌だが、教育環境を考えたら止む無である。 4校で再編成することになったのは、中学校を何とかしなければならなかったからだ。もう少し丁寧に説明をすべきだった。その説明が不足していた。

	教育委員会は覚悟をもってやってほしかった。 最初の説明で、1年生から4年生までの校舎を建てると言っていたが、それがなくなった。このことで、教育委員会に不信感を抱いた。校舎がダメになったのであれば、最初の協議会に戻した方がいいという意見もあった。説明は丁寧にやってほしい。
山野会長	保護者代表の方どう思うか。意見いただきたい。
赤羽委員	義務教育学校のメリットを伝えないと保護者は賛成にならないと思う。生徒が少ない学校は、部活動など選べない。子供たちの選択肢が狭くなっていることを伝えないといけない。 母校がなくなることを考えるのではなく、子供たちに何をさせたいかどう学んでほしいかを考えてもらわないと再編成は難しい。
飯塚委員	アンケート結果をみて子供たちの意見を聞いても良かったのではないかと思った。私は、子供の時、忍中の学校分離を経験している。子供ながら複雑な気持ちがあったので、中学生なら考えも出てくるのではないか。子供たちの意見も組み上げてほしいと思った。
加瀬田委員	南河原地区も子供たちの人数が減ってきている。部活動は、いろいろやりたいと思っても団体競技が絞られてしまう。 本来新しいことをやるとなるとメリットデメリットはあると思うが、準備をして時間かけて説明をすることが必要である。説明が不十分だから再編成ができなかったのではないか。 統合は避けて通れないのだから、子供たちのために、もう少し計画を立てて進めてほしい。
鈴木委員	太田地区も再編成をする計画の中で、太田西小と太田東小に影響

	があるのではないか。不安がある。 子供の人数が少なくて統合せざるを得ないのであれば、保護者を納得させるには子供たちのためにいい教育をするしかない。 少ない人数では子供たちのためにならないということを踏まえ、地域の方をどう説得するか。地域の方に説明が足りなかったのではないか。教育委員会はリーダーシップを発揮してやってほしい。これから再編成する学校については、反省を踏まえて進めていただきたい。
中居校長	荒木小も須加小も北河原小も子供たちは不安を感じていると思った。不安はゼロにはできないが、不安はあるけど楽しみだと思ってもらえるように交流活動をしてきた。交流活動の中で、「人数が増えて競い合い、いろいろな友達いろいろな考え方を知ること、統合することに前向きになった。」と作文を書いた子がいた。今後、複式学級の解消をする時も子供たちのケアをしていただきたい。
安藤校長	学校再編成は先のことで今は関係ないと思っている地域でも、将来の再編成に向けた準備を今から地域の方とする必要があると思った。今の子供たちが大人になった後かもしれないが、学校再編成をどう考えるかということを学校で取り入れる必要があると思った。
羽鳥嗣委員	南河原小と南河原中と同じように、荒木小と須加小と北河原小を1つにして見沼中学校と小中一貫教育をしてはどうか。荒木小学校を使って、見沼中学校はそのまま残して、南河原小中学校と同じように2段階方式で義務教育学校にするのはどうか。
山野会長	いろいろな意見ありがとう。

	義務教育学校は、小中一貫教育の象徴として取組もうとしていた。義務教育学校がなくなっても、小中一貫教育は是非進めていただきたい。
事務局	小中一貫教育は進めていく。
山野会長	他に意見はあるか。なければ終了とする。
	4 閉会